

平成 23 年度 事業 報告

(平成 23 年 4 月 1 日から平成 24 年 3 月 31 日まで)

I. 事業 の 概 況

当財団は、昭和 42 年 8 月設立以来、わが国の健康上の課題である「生活習慣病」に関する事業を一貫して展開している。

平成 23 年度も三本の柱である「医学研究助成」「生活習慣病集団検診」「健康増進」事業の更なる効率化と予算の有効活用に注力して事業活動を行った。

なお、「生活習慣病集団検診」事業については、5 月の理事会決議に則り平成 23 年度末をもって収束した。

1. 医学研究助成

第 44 回医学研究助成は、全国の大学・研究機関の研究者を対象に公募を行い、61 件の推薦応募の中から 20 研究に対して助成を行った。第 20 回特別助成の 3 研究と併せて、総額 2,450 万円の助成金を贈呈した。

第 1 回からの助成金合計は 914 件、総額 10 億 8,350 万円となった。

2. 生活習慣病集団検診

検診事業は、7 項目(胃部、胸部、循環器、血液、便、眼底、VDT)の集団検診を実施した。

年間延受診者数は 37,109 名で、前年度に対し 4,049 名の減少(対前年 90.2%)となった。

検診業務開始以来の延受診者数は 1,822,200 名となった。

3. 健康増進啓蒙活動

生活習慣病の予防・啓蒙を目的とした講演会を開催した。

平成 23 年度の各事業の実施状況は、次頁以下のとおりである。

1. 医学研究助成

(1) 第44回「医学研究助成」

61件の推薦応募があり、選考委員会を経て20研究を決定、平成23年9月15日に贈呈式を行い、1研究につき100万円、総額2,000万円の助成金を贈呈した。助成対象者は【別表】のとおりである。

(2) 第20回「医学研究特別助成」

第42回研究助成（平成21年度）入選者の研究報告20件を対象とし、選考委員会を経て3研究を決定、第44回医学研究助成と同日の贈呈式で、1研究につき150万円、総額450万円の助成金を贈呈した。助成対象者は【別表】のとおりである。

<第1回からの助成金累計>

	平成23年度		累 計	
	件 数	助成金額	件 数	助成金額
医学研究助成	20件	2,000万円	839件	9億9,800万円
特 別 助 成	3件	450万円	75件	8,550万円
合 計	23件	2,450万円	914件	10億8,350万円

(3) 第42回「医学研究助成」研究報告の発表

第42回研究助成入選者の研究報告を、当事業団発行の「医学研究助成研究報告集」に掲載し発表した。

(4) 第45回「医学研究助成」（平成24年度実施）

平成24年1月、ホームページ及び毎日新聞に募集要項を掲載した。

また、推薦依頼機関(大学・研究機関)に募集要項を送付し、推薦を依頼した。

第45回研究課題は次のとおり決定している。

- ①PTSD
- ②CKD患者の管理
- ③下肢深部静脈血栓症の予防
- ④多発性骨髄腫の治療

*応募締め切りは平成24年5月20日。

第44回「医学研究助成」20研究 総額2,000万円／1研究100万円

- 研究課題 1. 生活習慣病予防の運動療法
 2. 大動脈瘤
 3. 不眠
 4. 肝臓病の画像診断

(課題別 研究者五十音順)

研究課題	研究者	研究主題
1	千葉大学大学院医学研究院 助教 大鳥 精司 他5名	腰椎骨粗鬆症と腰痛の関連・ビスフォスフォネート投与と運動の効果について
1	鳥取大学医学部 講師 木場 智史 他1名	心筋梗塞後の循環中枢の異常に対する運動療法による予防効果の検討
1	関西医科大学 講師 宮坂 陽子 他3名	肥満患者の運動療法が左室拡張能に及ぼす影響
2	大阪医科大学 教授 石坂 信和 他4名	感染性大動脈瘤の診断・治療に関する総括的検討
2	福岡大学医学部 教授 坂田 則行 他2名	大動脈解離症例における中膜解離にかかわる材料力学および病理学的解析とその治療戦略
2	長崎大学医学部 助教 末吉 英純 他1名	超音波エラストグラフィを用いた大動脈瘤壁評価法の確立
2	東京大学大学院医学系研究科 特任准教授 鈴木 淳一 他4名	大動脈瘤進展における歯周病の関与を解明する臨床研究
2	神戸大学大学院医学研究科 助教 山下 智也 他4名	腸管免疫修飾による新規大動脈瘤予防法の開発
2	熊本大学医学部附属病院 助教 山本 英一郎	大動脈瘤の新しい分子機序に関する検討 ー酸化ストレスと、その誘導分子ASK1を中心にしてー
3	山梨大学大学院医学工学総合研究部 教授 小泉 修一 他2名	グリア細胞による睡眠調節に関する研究

研究課題	研究者	研究主題
3	広島大学大学院医歯薬学総合研究科 教授 内匠 透	睡眠・覚醒リズムを司るリズム中枢特異的発現系の開発
3	東北大学病院 助教 中川 敦寛 他4名	外傷性脳損傷受傷後の不眠:経時的変化とリスク要因の解明
3	東京都医学総合研究所 プロジェクト リーダー 本多 真 他2名	中途覚醒型不眠の代謝性バイオマーカー —レム睡眠発現異常と脂肪酸代謝変化に注目して
3	群馬大学 助教 山本 正道	ノンレム睡眠及びデルタ波増加を目指した睡眠メカニズム解明の新規 アプローチ法の開発
4	がん研究会・有明病院 医員 有田 淳一	転移性肝癌切除患者に対するソナゾイド術中造影超音波の有用性に 関する前向き臨床試験—Gd-EOB-DTPA造影MRI、造影MDCTとの 比較—
4	大阪府立成人病センター 副部長 大川 和良 他1名	肝細胞癌に対する経皮的ラジオ波焼灼療法(RFA)の治療効果判定— 3次元CTフュージョン画像解析を用いた検討
4	東海大学医学部 准教授 加川 建弘 他2名	肝疾患における gadoxetic acid を用いたMRI検査の意義と有用性の 検討
4	九州大学病院 診療准教授 調 憲 他4名	FDG-PET(18 F-fluorodeoxy glucose positron emission tomography) による肝細胞癌の上皮間葉系移行の診断とその機序、革新的治療開 発への展開
4	国立がん研究センター ユニット長 関根 茂樹 他1名	肝占拠性病変におけるWntシグナル異常と肝造影剤動態の相関
4	大阪大学大学院医学系研究科 助教 丸橋 繁 他3名	3次元画像解析システムを用いた慢性肝炎および肝硬変患者におけ る肝予備能評価法の確立

第20回「医学研究特別助成」3研究 総額450万円／1研究150万円

(第42回(平成21年度)「医学研究助成」研究報告を対象)

- 研究課題 1. 糖尿病合併症の予防と早期診断(臨床研究)
 2. 脊柱管狭窄症の新しい治療法
 3. 肺癌治療の新たな展開
 4. RFAの適応と限界(他の治療法との比較)

(課題別 研究者五十音順)

研究課題	研究者	研究主題
1	徳島大学大学院ヘルスバイオサイエンス研究部 講師 栗飯原 賢一	2型糖尿病の発症およびその心腎血管障害の予測マーカーとしてのヘパリンコファクターⅡの臨床的意義
3	東京大学医学部附属病院検査部 講師 高井 大哉	ヒト肺がんにおける受容体型チロシンリン酸化酵素の異常の網羅的な解析による新規治療標的分子の同定
3	千葉大学大学院医学研究院 准教授 本橋 新一郎	原発性肺癌に対するNKT細胞を用いた新規免疫細胞療法の開発研究

2. 生活習慣病集団検診

本年度の延受診者数は、全検査項目(7項目)合計で 37,109 名、前年度に対し 4,049 名の減少(対前年 90.1%)となった。

各項目の内訳は次のとおりである。

<検査項目別受診者数> (単位：名)

検査項目	平成 23 年度	平成 22 年度	増 減
胃 部	5,925	6,672	△ 747
胸 部	7,662	8,511	△ 849
循 環 器	7,533	8,177	△ 644
血 液	7,584	8,291	△ 707
検 便	4,136	4,539	△ 403
眼 底	2,514	3,070	△ 556
V D T	1,755	1,898	△ 143
合 計	37,109	41,158	△ 4,049

(注) △は減を示す。

職域団体と地域団体の受診者割合は、職域 69%・地域 31%と職域の割合が高い。

*検診事業開始以来の延受診者数は 1,822,200 名となった。

(1) 検査項目別要精検率

検査項目	受診者数	要精検者数	要精検率
胃 部	5,996 名	398 名	6.6%
胸 部	7,845	135	1.7
循 環 器	血 圧	1,242	15.4
	尿	308	3.8
	心電図	72	0.9
血 液	7,788	2,180	27.9
検 便	4,157	219	5.2
眼 底	2,520	561	22.2

(注) 平成 23 年 1 月～12 月の受診者 8,859 名を対象とする。

(2) 胃部要精検者の追跡調査結果

(1)の胃部要精検者について、追跡調査を行った結果は次のとおりである。

(平成 24 年 3 月末現在)

① 精検受診および回答状況

要精密検査者数	398 名
精検受診回答者数	212 名
精検未回答者数	186 名

② 精検受診回答結果の内訳

胃がん	1 名 (0.01%)
胃ポリープ	31 名 (0.51%)
胃潰瘍	22 名 (0.36%)
胃炎	106 名 (1.76%)
その他	20 名 (0.33%)
異常なし	32 名 (0.53%)
合計	212 名 (3.53%)

- (注) 1. 胃潰瘍には潰瘍瘢痕を含む。
2. その他は十二指腸潰瘍、胃粘膜下腫瘍など。
3. () 内は胃部受診者数(5,996 名)に対する占率。

(3) 大腸要精検者の追跡調査結果

(1)の大腸要精検者について、追跡調査を行った結果は次のとおりである。

(平成 24 年 2 月末現在)

① 精検受診および回答状況

要精密検査者数	219 名
精検受診回答者数	115 名
精検未回答者数	103 名

② 精検受診回答結果の内訳

大腸がん	8 名 (0.19%)
直腸炎	0 名 (0.00%)
腺腫性ポリープ	39 名 (0.94%)
非腺腫性ポリープ	14 名 (0.33%)
その他	25 名 (0.60%)
異常なし	29 名 (0.69%)
合計	115 名 (2.76%)

- (注) 1. その他は良性腫瘍、大腸憩室、痔疾患など。
2. () 内は検便受診者数(4,157 名)に対する占率。

(4) 特定健康診査

特定健康診査を行った結果は次のとおりである。

性別	保健指導レベル	35～39歳		40歳～74歳		合計	
男性	積極的支援	42	12.9%	344	15.2%	386	14.9%
	動機付け支援	25	7.7%	201	8.9%	226	8.7%
	情報提供	259	79.4%	1,720	75.9%	1,979	76.4%
	計	326	100.0%	2,265	100.0%	2,591	100.0%
女性	積極的支援	8	3.7%	55	4.2%	63	4.1%
	動機付け支援	8	3.7%	65	4.9%	73	4.8%
	情報提供	198	92.5%	1,197	90.9%	1,395	91.1%
	計	214	100.0%	1,317	100.0%	1,531	100.0%
合計	積極的支援	50	9.3%	399	11.1%	449	10.9%
	動機付け支援	33	6.1%	266	7.4%	299	7.3%
	情報提供	457	84.6%	2,917	81.4%	3,374	81.9%
	計	540	100.0%	3,582	100.0%	4,122	100.0%

・特定健診は40才以上75才未満が対象だが、健保組合によっては35才以上を対象としているため、上記の年齢区分とした。

・特定健診の保健指導対象者の具体的な選定と階層化の方法

ステップ1	腹囲とBMIで内臓脂肪蓄積のリスクを判定	
	・腹囲 男性85cm以上 女性90cm以上 *	→(1)
	・腹囲 男性85cm未満 女性90cm未満かつBMI 25以上	→(2)
	* 男女とも、内臓脂肪面積100cm ² 以上(CTスキャン等)に相当	
ステップ2	①血糖 空腹時血糖値 \geq 100、HbA1c \geq 5.2、服薬	
	②脂質 中性脂肪 \geq 150、HDLコレステロール $<$ 40、服薬	
	③血圧 収縮期血圧 \geq 130、拡張期血圧 \geq 85、服薬	
	④質問票 喫煙歴あり(①～③が1つ以上該当の場合にカウント)	
ステップ3	(1)の場合	ステップ2の①～③が2つ以上該当 ステップ2の①～③が1つ該当 ステップ2の①～③が該当無し
		積極的支援レベル 動機付け支援レベル 情報提供レベル
	(2)の場合	ステップ2の①～③が3つ該当 ステップ2の①～③が1つまたは2つ該当 ステップ2の①～③が該当無し
		積極的支援レベル 動機付け支援レベル 情報提供レベル
ステップ4	○服薬中の者は特定保健指導の対象としない。 ○65歳以上75歳未満の者は、積極的支援対象でも動機付け支援とする。	

・腹囲・BMI測定結果

性別	腹囲・BMI	35～39歳		40歳～74歳		合計	
男性	基準内	196	60.1%	1,142	50.4%	1,338	51.6%
	基準外	130	39.9%	1,123	49.6%	1,253	48.4%
	計	326	100.0%	2,265	100.0%	2,591	100.0%
女性	基準内	188	87.9%	1,038	78.8%	1,226	80.1%
	基準外	26	12.1%	279	21.2%	305	19.9%
	計	214	100.0%	1,317	100.0%	1,531	100.0%
合計	基準内	384	71.1%	2,180	60.9%	2,564	62.2%
	基準外	156	28.9%	1,402	39.1%	1,558	37.8%
	計	540	100.0%	3,582	100.0%	4,122	100.0%

(5) メタボリックシンドローム判定

生活習慣病集団検診の受診者を対象としたメタボリックシンドローム判定は次のとおりである。

性別	メタボリック判定	～39歳		40歳～		合計	
男性	基準該当	46	4.1%	402	17.2%	448	12.9%
	予備群	108	9.5%	448	19.1%	556	16.0%
	非該当	978	86.4%	1,494	63.7%	2,472	71.1%
	計	1,132	100.0%	2,344	100.0%	3,476	100.0%
女性	基準該当	3	0.8%	89	6.1%	92	5.1%
	予備群	8	2.2%	81	5.6%	89	4.9%
	非該当	358	97.0%	1,281	88.3%	1,639	90.1%
	計	369	100.0%	1,451	100.0%	1,820	100.0%
合計	基準該当	49	3.3%	491	12.9%	540	10.2%
	予備群	116	7.7%	529	13.9%	645	12.2%
	非該当	1,336	89.0%	2,775	73.1%	4,111	77.6%
	計	1,501	100.0%	3,795	100.0%	5,296	100.0%

・特定健診は40才以上75才未満が対象のため、39才以下と40才以上で区分した。
但し、40才以上には75才以上も含む。

・メタボリックシンドロームの判定基準

基準該当	：腹囲基準値外かつ、高血圧・高血糖・脂質異常の内2項目以上抵触
予備群	：腹囲基準値外かつ、高血圧・高血糖・脂質異常の内1項目抵触
非該当	：腹囲基準範囲内 または 腹囲基準値外かつ、高血圧・高血糖・脂質異常の抵触項目なし
基準抵触とは	
腹 囲	：男性85cm以上、女性90cm以上
血 圧	：収縮期血圧130以上、または拡張期血圧85以上、または服薬中（血圧を下げる薬）
血 糖	：空腹時血糖値110以上、または服薬中（インスリン注射、血糖を下げる薬）
脂 質	：中性脂肪150以上、またはHDLコレステロール40未満、または服薬中（脂質を下げる薬）
*空腹時血糖値を測定せず、HbA1cのみ測定の場合は、HbA1c5.5以上。事業団では該当なし。	

・腹囲測定結果

性別	腹 囲	～39歳		40歳～		合計	
男性	基準内	848	74.9%	1,245	53.1%	2,093	60.2%
	基準外	284	25.1%	1,099	46.9%	1,383	39.8%
	計	1,132	100.0%	2,344	100.0%	3,476	100.0%
女性	基準内	345	93.5%	1,211	83.5%	1,556	85.5%
	基準外	24	6.5%	240	16.5%	264	14.5%
	計	369	100.0%	1,451	100.0%	1,820	100.0%
合計	基準内	1,193	79.5%	2,456	64.7%	3,649	68.9%
	基準外	308	20.5%	1,339	35.3%	1,647	31.1%
	計	1,501	100.0%	3,795	100.0%	5,296	100.0%

3. 健康増進啓蒙活動

生活習慣病の予防・啓蒙を目的とした講演会を三井生命船橋支社にて開催（1月12日）した。内容は、(株)タニタヘルスリンクによる、参加者の体組成チェックの機械測定と、その結果数値の解説・健康改善方法（エクササイズ・料理レシピ）など、各々の参加者にとって具体的で分かり易いものとした。

4. 公益法人制度改革への対応

平成20年12月1日より、公益法人制度改革3法が施行され、平成25年11月30日までの、5年間は新法人への移行期間と定められている。

今まで事業活動・機関設計、会計・財務・財産、情報公開、内部統制など、公益認定基準との整合性の確保を目指し検討を進め、平成22年12月には厚生労働省から「最初の評議員の選任方法」の許可書を取得した。

当初、検診事業を含めた事業内容で新公益法人への移行を検討してきたが、平成23年5月の理事会において検診事業の収束が決議され、今後、医学研究助成および健康増進啓蒙活動の二つの事業内容で、新公益法人への移行を目指すことになった。

11月の理事会においては、平成25年度の認定申請と平成26年4月1日の新法人登記を目指した、移行スケジュールの了承を得た。

今後は、そのスケジュールに沿って諸規定の整備、最初の評議員の選任、予算の編成など、新公益法人への認定申請に向けた諸準備を進めて行く。

Ⅱ. 理事会、評議員会に関する事項

第167回理事会 平成23年5月18日(水)開催

- (1) 平成22年度事業報告、決算報告(収支計算書、正味財産増減計算書、貸借対照表、財産目録)認定の件
原案どおり認定された。
- (2) 事業内容見直しの件
原案どおり決定された。
- (3) 「財産強化引当資産取扱規程」改定の件
原案どおり決定された。
- (4) 評議員推薦の件
朝比奈豊氏、石井當男氏、北山禎介氏、幸田正孝氏、西村博氏、福内靖男氏、三宅明氏、和田達雄氏が再任された。

第46回評議員会 平成23年5月18日(水)開催

- (1) 平成22年度事業報告、決算報告の件
- (2) 平成23年度事業計画、収支予算報告の件
(1)(2)とも全員の諒承を得た。
- (3) 理事および監事選任の件
理事には、上村修三氏、岡野健一氏、高畠豊氏、赫彰郎氏、長谷川慧重氏、萬年徹氏、山本幸央氏が再任された。
監事には、五十嵐公康、上田英文の2氏が再任された。

第168回理事会 平成23年5月18日(水)開催

- (1) 理事長互選の件
理事長には上村修三氏が選任された。

第169回理事会 平成23年11月16日(水)開催

- (1) 平成23年度上半期事業報告の件
①平成23年度上半期の事業概況および収支計算
②平成23年度下半期の事業および収支計算見込み
全員の諒承を得た。
- (2) 第45回「医学研究助成」事業計画決定の件
原案どおり決定された。

第170回理事会 平成24年3月26日(月)開催

- (1) 平成23年度事業概況および収支計画見込み報告の件
- (2) 平成24年度事業計画および収支予算案決定の件
(1)については全員の諒承を得た。
(2)については原案どおり決定された。

Ⅲ. 理事、監事、評議員の異動に関する事項

新たな就任、および退任、辞任等はなし。